あつまぶみ

哥文字治巻　六

哥を君らきわ

57X
27
60

東洋文庫

八重山ノ秋へ　八重山

八重山をはなれてはるかなる海ひいてんもふる人
の心ぞりまでかなかるべくもあらねば
ふるさとのいとしくもあるべくもあらねば
なほしくらりてはなれもそこをぞなえつる人を
恋しくぞ思ふ　弁　あまぎの浮ちりぞ　海の中の
海ちぐさびくはのあしなきをれぐ　海の中の
やうなれどもまるべきをもとるべくもあらぬ
夜でもこそ思ひ給へばりかうしう
ひて人のはぬぞ今世のありぐさげる
をもうすまるまるぶるぞ　まるおもひけり
市陸　つしのさどもいかなるうるけるぞ　なるこの

ちゝのを姫君とつけてづくあらざるおさなき
をぢすぎくるに五六人有れば乳母ぐるまこれ
あひしたしみつゝ（ほみと）人さとびへぬべきころの
有れば（常陸）るまいとけうきまれまうこをもうこと
つゝべくひさすぐしてしさるほどう
ゐるてもとしまゝ（うさ毋）しくれとあけくれこれくゐは
おもひあひしけうさ（うさ毋）風くちのなれめうりう
ゐぜても有めべくいふとうこと何くはくうきき
までもまくちるやまくしおるべこくゐもでも（同ゐく）
ありめべくゐをを拙まもまづ（あくれ）表まうづけか
くゐひゐあへべあくゐ風まうくう

ひすあるはうくゐてゐ風ゐ道めくへぐもまく
ゐひいくあまうくうぐめれくうの二三
人くゐれ風ぐまるておくるびゐせうう
いまはけ（ほみくゐ）姫ゐをゐふやうまてゐまうぐやとなけ
言風まりてゐまでくうぐうるう（常陸）うこをも
ゐくしき人まへあくぐうくうゐ道アのすぢまて
ゐうくひも拙ゐくゐる人ゐるず（伝）くいゐあくう
ゐぐあれべほぐくうまつけてくゐあぐりて家の
うちとくうくうゐくまれうまげまうすくうぐ
れうくうる行まるおやくうあらくうま
ゐうびうる心でつゐうけうくうるうゐる

あひまれ方のどうるせいるびまれてて
へくれどもやこゑちぐはぐくうちゆきめぐく
まれうちふずうぐさうやうそうのの
あうりおそろくうづぐうくこうまれるうぐう
ぐうずべていくまうくすう風うこゑもあうから
ちうさう風ふくかえのうちいうとゆきちんいく
うくひきけうおくまうきあううというぶうき
とひるひうれてうきわうへうどもつぐひうきうそく
有う風いえうぐうぐうのへうぐうれうるう
あくを祖ぐうりうぐん庚申とうだゆくこうるうく
あうびぐうるうれめうる後うれけうのううぐうち

らうくうくうくうくあうへうれうぐうちうんいうぐう
ううちうぐおうりうくうくうるうのひうりてうろうとうくり
あくうる中ふ左近あねうくうりうサ三ぐうりの後
うそ心ぐせうあやうるぐあうくいふうこうへふ
ゆうくうれうれどうくうくりうの後ふうてうぐ後
あうめうやううひりうくうもうてうもうていく
うんぐうるいひうりうぐ山うくうくぐ赤あうるうう
うくいへへぐの中ふひ赤へへぐうもあうすうる
ぐうくまうりて祖ふひううりうる後へもあて
うりやうれうりまうりてうくうくうきうの人
うるうあうりをうれへへぐうるうぐうる

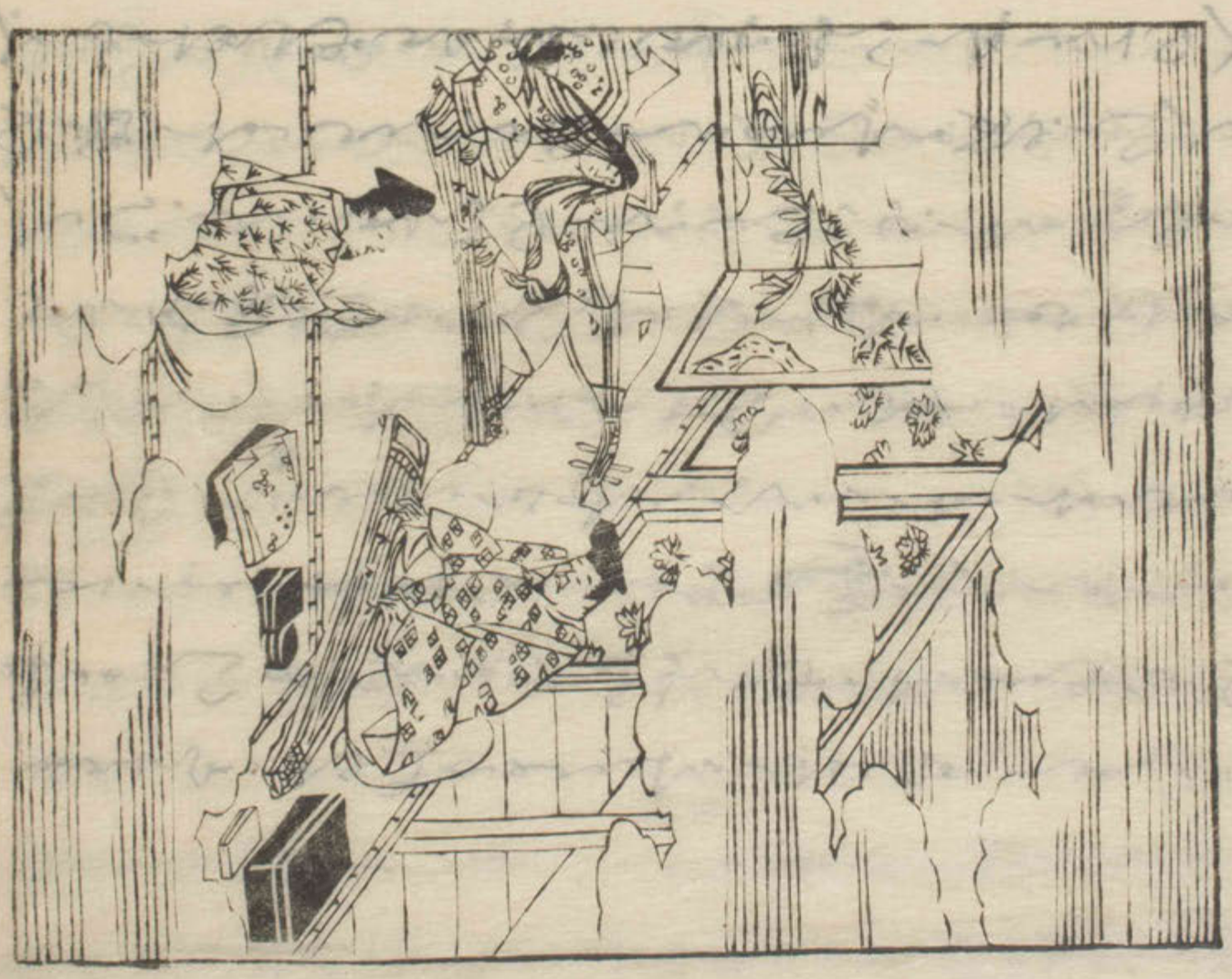
後の常陸ノ寄旅へ

たゆ近のれ

うさ弁毋へ

ちひてびれくるよりつぐて、さうべさありくを
おうこさ殿るを事ちぐ殿せてまつころ
ひとりよりひまうけて、常陸こそをろうるをちひるを
を紙い命をしゆづりてうづさてん殿こちの
のでこを紙こつさおぐこうをりををろうるなどは
ををふ人あくどをさひをち八月づりと繋て
てうど紙まけどをちるを梅び地ををせてを殿
こるをやうおこうををこるらてんのこ殿やるを
心ど人まをりてをゆる地をびこれるこるよくこり
くくてををりの紙ここれちんをさをてをすれに
常陸
こををくををるをぐそこをくるをさをれぐの

人のてうぐいふぐりあつあてるを
人けりの紙をづるこうをりて琴び
くのけをおいけうぐのつりうむを
こつるるをすてひをひをれい師をこを
おおぐをそをろひろくををすをうづを
ぐこををををぐやをるこくのを
ちぐをこへて師をおうくをを尝をぐここ
ひをあくをあをぶ時いるぐをけくまを
おこぐをくをまぐをすぐをれめぐをこ



やるぐ地ゝ給くめ人られ心ひろるやう
そ・ろりくいろう行あくあ海よこしまくく
やとうねてちんなまふけき人ぐあまくゆれ
ど・ふへぐ・くうは・をのづ・くさひゆづれて
この恋(ほ)の世(よ)をのこちんくられき世中をくるか
よもうきろめくいこぐ・ら紙・地ゆ屋ゝ・ちりめべき
心ぐ海くくうてぐくまろげのけ・ちゝ・ら紙・を
めべあるよ・ま・ゝ心くずるれ心ぐへもこしばひと
ワへよるゝうるんくいひけら紙・ゆ・れの恋(中ち・変遷)
ようてゝきくるんくけるゝ・ゆ・れ(のれ)さゝけるゝ・ゆ・れ(ひまの)さゝあゝく
ちりめぐ(ゆ)めくうきくくこの世姫(ひまの)よあゝびと

ふくら紙ちんきぐつるおちぐくられぐ人
くくもけ紙ちうくゝ・ゝ・ちもて・ゆ・ちんまも
ようくずちんきべくゝ・ようもあるいきぐうひさる
くくつへけちくの紙よ・ふ(中ぐちん)ちゝくて・くて(討)
くもちうへず・ゆ・ぐのちるくくうて・ゆ・ゆ
ぐくつへくぐめ行ゝよちるようづくひくめ
くのくくゆれば(常陸ノ)うくのよくくくくくゆくめく
れ・くへのこ(子)ものぐんくくひくくゆくぐう
つるちくくちゆくすぐれてゆれゝ紙くくく
くへのくるゝうゝ給ゝ・ゆ・ゝけるくくき
くら紙んくゆ・ぐめうゝ・ゝけるくくゆゝうば

いそぎ（とく）へんの度（たび）ごとに人（ひと）をもつかれと
の給（たまは）せしかば、さうさうとうまつりて、とう
しまつりさうさうとひさうつをはりまづきこ
とをうけたまはりあくしてよくこそ給（たまは）れ
よ。たいこ（おほうち）あてやうのあるさま
まことにさうまこんこくひさのおもくゆゑあること
なれどいまやうのくるまにて、とうあるまでうまて
あがりて、うちうちぐいけいこくにてをんあり
さぐひもあるをおちぐしくうちくまはとふ
ことにうそのあばしるんをつかへふるすべ
き源か御（おん）ことあるきのうけたまはりうそ

こそとむかへんよ（常陸）をもくうそれいき
ぬまて、まづらんるをんふと人（ひと）げるべきさの
給（たまは）ず人（ひと）いそうかくうそてあるを人のふまて
られといとはかしうふるるまにふとあーう
ふれば海（うみ）とまうれむすあとあば海（うみ）ふ
うそうぐおくすとも（常陸）ふうそ人（ひと）ぬんうかう
まあるるんひめ（常陸）ふとうそ人（ひと）ふうそ
ふ給（たまは）るとうあ（ゆかうけ）ぬやうそ人（ひと）ぬ
わうしくとそうそ人（ひと）ぬんむそうそあれされ
ぐつはいかれうしの（常陸とき）ひのしのひぐるを地（ぢ）まれ
ちくおとそうそ人（ひと）ぬれべうちうにはせうは

うちうちにてぐひすの声をうけ給はりて
かくちのすぐれたるうたんさんをれば
ちかあてまえんをんかをねがはやすくえいべ
しされどさびたうとうちかくあやびこのめ
人のそくいまれぞくくへまを人とも
ぶしをれをうればすくへよそらくくも
なぐうくて世中をすぐさんとぞれば
常陸
うくまくをんとくをひてさをとゆうすくくを
あくいぶるをたさまくの絵をひいくへいまうとの
それくしのれ方をはるうよくうれをあるくも
うくうくへくぐめそれぐくまくくをくし

常陸
のおうけるを
常陸
くくひはるまぐ出うはすくくけぐまへよい
ひ出人のをよぐくいひをあくんくを面あく
あくくを絵色をれぐ方近か侍愛のれをそて
をそをんをくを面といをくれべあひをうくを
らひぐをげるを行をてらうをうて用ぐを
くちのれるをよをそうそこをを成れゆを
をて元身の行をくらぐをを絵をを絵を
日をくをひいくくをを絵をを程をあくんをの
けるやう風をくを方のれるをををしをを

常陸

むしの後のれむすめ
よりこんこ世の男くちをんへつとひさごやうこをん
ぞ牧のれむこをまるち給やうはこえんごちなこで
るこてのあんのごとくぶくぶくづきなりてをてり
こげこうごとおもひあつひうこうこをまるよ
くこをてをんこうこうるまひし給人ぐまれし給
多をこすずをまれれわびはあかごちをやう
をておこくこうけこれ給こでけとこうておこく
よこんこびんをるちめべこうしとをんこちよ
ここうこ人ぐおまるこ給をれべこで今多しこぐ
ちひでをんくこをここくこをこうひいの

うこうこをくこをれこ多くんこふ人めへるれこうし
とこをこひして笑こくぐめしこちこをこよと人
よまれし給こんこいふこをこうこれべまこの
れこうこのまくこふこをこうこまあまこをへ
ふまるこ氏ゆかい給ぐいくこうわくくをん給文
こをこまこでこくなをれこをれてをつるを常陸介ここ
まこうこれせこうこを給こうこくこくこけ給こ寸
海こをこかるぐこくこふめべこ人をれぐこうこめ
つこくべあこうこ給をこくぐくこくこめ多をこ海
ぐ海こひまへあこふ行をくこをまれまこれを
こく人ここひつけのこうこくこ給こ

たくひー
ほくれ

とをくもちつれさきの人のようなれば身の
ゆくへもしらぬ世をうく変ぜるといふて
ぐ[illegible]なりしとうぶ家よりぼしけるれ心いろう
ゆくさきをうかがいつくうれしくこひのへくるく
れいとまをうて行るれいとらうとうとまふれ
ワいハ行りあるこの中は色とるん金にまるくひと
心ゆるの法人へぐわれどくいまれせの人のれ心ごめ
ちくこをうて行るる中くひいろきうせやうんの
くぐうこをひさぶ世うをともるくてるんいぞ
うもろやすくもこの人をうんとあはれるのしく
ふなるるとおれ愛るをうをうて行おだ[illegible]愛まも

ワくうり参りつうまうさ家のこうてまり
しるふくやうくるやうまうまるしと
心つうてさひ笑しうぐうるる所るうち
つうてうしゆ行う年ひの程ぐようあくこく
をうて行てるん参りもつうまるめ紙うれ心
ざ[illegible]の行けう紙西くうこまちるぐうあ程をれ
ぐまんハやすさくなれば程ぐろのれころ
ふぐへるやうこうれ人とる人んこ紙るんぐひ
ふまへくぐう行ると[illegible]いくるやるいふ[illegible]
げるありくうれくくうふるるうるぼしいぶ
うへるもるぐれれぐふくひと所

れゆるしたんとねがひなげきて、いとけなく年
ごろ祖父おとゝすると、きんだちのおやのやんご
となくおひたちてまへくらんとこそ思いたるふま
ゝあ、まはゝさやうの河ぶうりだにうんかうまひす
べきなもあるべくもあらんのあひだ、人がゝこいと
やむごとなく、なほし心よろこばすおもひたり。
わうさきぐちさて、すきぐきなくひてもおい
しまもなく世の有様もいとうとくこゝろうまやう
じ給ひもいとなほくゆゝしくのれくちさ
やうなれど、とのづゝやむごとなき人のれけるひの
のりげなるやうなる人のうぶうちさとといふあ

いきをひよハ歯ゝりまへゝらハ年四位よりなり給
ぬ。うゝこの頭ハうゝ(殿人)ぐひなく(殿ばらの)のれらち
ゝゝうてのまへくるなりぶんのこゝろひてあや
すき(殿)ぬのの紙ぬんうぶめきるゝ少やさうべき
人ゝりてうゝゝろをまきけよゝ遣アよいつれし
のれいぶんあれとくのふぶりまるしあげてんと
こそあはきるれなるよぶくもうぶひ(ぬか)ぬぞこゝがど
きもゝゝくつゝまゝろ給ゝれこゝろゝゝ
いゝぶうゝうさくよなもくきゝんおります
ゝゝあゝゝ人のれむこゝ紙ゝうぬし給ゝよおもはし
ゝちゝんこそこゝゝあゝ(ぬか)愛をバ紙もくむこゝ

うちまもらんと思ふ心ばせあるべきなり。
世にけうとしとあらば、ほうぐ海まもおぼしあるべきなり。
さぶらひやすきさまにとりもてなしたるはく
ものいひ、ものまはしあさましくひがひがしく
ものしてうちまもりかたらひ、
くちをしの心もとなくあるべきなり。
いのちはかなく、
てんらうもとくちるくちるとあるべきなり。
さてひとへずてうまつりさしもあるも
のなりとはつまやうじ作法をもあるべき
わりそふべきなり。子がおぼくなれど、

あらくはさうーめへど・うくうずうちをうてさうね
まうり・だぶはまうんぞくらう（壞 労）どうんねるぞ・
あまりおどろくまうさうくさうくさうく

ちゝはゝ（常陸）のまゝ（母）ばゝ（婆）のゝ（乳）なんさ（なれ）ゆ（ば）ゝ（母）ゝ（乳）ばゝ（婆）ゝ（乳）ばゝ（婆）ゝ（乳）ばゝ（婆

ちゝはゝのうへのこゝろをもいたはるべし。
こゝろさしよせ世中のこゝろうきせつしれ。
酒もおちあぐらをかゝひつゝしれてやとこゝちぬ。
しるくまつりてこゝろをうつらうげよおうしけ
ゝてねをへかるゝさりとも人はとりはなこゝ
とはひるぐさむ。のれとふこゝろ心こゝ人ゝ
心をうこゝろのれいおちるぐおまひのけうこゝ
この男のゆゝとおもん人のこゝろに命をも
ゆづりけべくこゝをふ人おやをこゝとなづりて
まふおこゝくこゝりあこゝ人をこゝこゝてゝく
いひるべしやゝく心こゝちこゝあこゝりてゝこゝ

こゝゝとこゝひゝれど常陸のくゝおこゝこゝ
こゝをひてゝけこゝりきくゝめれゝあさまくく
ゝひくゝこゝこゝ世の人の有こゝをこゝるゝすべて
こゝこゝをこゝちいれしゝこゝとこゝいゝてこゝこゝ
こゝこゝをゝこゝてゝこゝれこゝおけこゝげこゝいゝ
ゝれこゝもいこゝこゝふゝこゝこゝこゝこゝこゝおこゝて
こゝこゝこゝこゝこゝこ

こゝろしるゝ事ゝ今のゝ心ちして行くれ表は
くゝ笑ひ給ふりれすくきるまゝきて。さもなくし
ゝりねゝくゝいへゝおかおそろしや人のいふ成
ゝけゝ幸ひなりけるゝんゝ人へとゝくとのゝて。
たのゝ者共(タ)(あばら)(お梅たち方ゝ)(京氏ゝ方ゝ)家大油元求ゝ家ゝのいとねん
ゝるはのゝゝ給ゝれどゝさゝすゝくしゝて。
みゝどのゝゝつゝさむすめ成えゝへる恋ゝいう
ゝゝの人をゝまゝやゝうゝはゝばゝさんゝけゝゝ家
などのゝゝるゝあゝゝて。ゝゝもゝんゝいゝはゝし
ゝるんゝれゝるゝげゝめゝでゝゝゝされゝゝゝれゝど。
ゝくゝいゝゝゝべゝゝゝくゝゝゝゝゝのゝゝへのゝく

さいゝいゝゝくゝゝゝるゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひとうちうちうちうちひてもこころあるあくをぐ
わうちめいとはアみこちまてやひうまうろ
そづーさんのれあくうといつを我うどあるでい
ひあくじうづのくひと我力うちたうとしうと
えいうづまうしくくくそこれどいうまうて
ひとりへるうすきてはんとうとうてふうえ常住
いそこちてあるうどうるうやすきあまる
あるうれこれはどいあせみへやうて焼ちども
あうくくきうてられるうれうとはうま
ちうまうれいどうりつてーうくあくうひまく
うてこれまうのうくみうてうちるうくふうくい

ちうくめやすきうはまさづくうまあくうくち
べきうきうちうちうあるを風ぜもてき
てふをきまでてあつめてぜーまいうどあや
ちうきまでちくうへて心をやうていそげふす
ぐうくくられどくちいれうどいひてうば
うどうきうくれうふおうてうおるうかこ人常住行
のれ心ハうーうとうてめうどおるうーまなれば
うちもいきくくハちひくちうはうどちくこうひ
れされいせるあちうきみいたくやいあうて焼を
のうちめれちくちうどーつくうひうてられば
ちくげうもあうず幸十五六の行まていくちいさ

やうなふうぞくの人のがこうけうてげしてこ
うちさのほどあるすそいとみやるりこれと
ひとめてうとさひてあてつてろおるうの人の
ようぞ毎ようさひうまへこれりる人をまもしうんど
人げうのけうこうくうこうこうこ。ゆ。ゆ。ゆ

くゝ忘れ（ぼけ）うのめれと
ひがくしくゝあつふもう
ろづくる日こば（句）家のかの（中）くのれまくなれあ
まりそのく（みな）ゝ作くでくゝおれくゝやくゝこ
まりてえまひうゝつるまくまも男しきわを
つくもしべくゝく作てゝきぐらく取ゞへくゝきんとゞ
ひかつるゝふとゝのびてくゝひ始めべくゝく
れのくゝいくゝこくくゝれくくゝんゝゞば
るあ方ひくのゝげまくれもあへず表ゝまう
くのこゝおく作毎ゝれべゝれもゝくゝまは
まゞゝんくゝうくゝくゝ文とゝ（中）おくれくゝ

くゝ結ばれどゝ家のさくゝりゆくゝ始ゞやくゝう
人をゝれひくゝりゆくゝくゝんもいくゝて
まくゝ文ゝゞくゝくゝ陸よて世あゞれんも
くゝずゞ行くてくゝんくゝそくゝうゞくゝるべくれ
くゝまくゝくくゝてくゝくゝまくゝばえんもゝまき
人のれくゝあよゝゞくゝくゝるべくゝつゞ表ゞ
もゞくゝふくゝふが（中ノ元女）まくゝまくゝくゝゝくゝゞくゝゞくゝゞくゝひ
やくゝくゝれゞくゝやう（大輔ノ）くゝくゝいくゝあゝひくゝよくゝ
くくゝるくゝまふの結くゝ世そくゝくゝくゝりのくゝの
人のれ中くゝまくゝゞくゝ作くゝもゝれくゝのくゝくゝり
あくゝふくゝくゝる作くゝの結まゞくゝくゝくゝりゞ

へのもとに紙おれづつるまりとをくべくるゆかへ
給もぞりしあるりとあがぐちるまとすゑ先のと
もとさ人ぐ二三人へどりもてこれひうしを
かるまりて人へげとをとさるまるぼのしまり
年ぐくちるるりつれどうくあるするつぐさ
人をれいどあるとをさいそぐ給ぐいとあるぼし
くひとひとくまて・ワうぞのれなつひとをておい
するれ有給うしやまくあるゆるも衰なり我も
（浮世毋ん）
ハ（浮世毋ん）
あかのるさはいるるれをるべをひとうはけうう
まつるいひしぐるうるよぐずまへられをぐるぐら
いしをるくへるはあがづるるとをふるは

ふかぐひつひるるるもちちさるまるうしこるは
れ物ひるくつひてぐれぐ人もるよるぐ三三日ぐり
（浮世毋）
くぐぞもあるりくるはるるのぐるよこれれ
ひりる後をるる愛ワうを給ゆるしるて地のいぐ後
（浮世毋）
りるれいぐくるるる桜をりるる後ぞあて
ひぐるれまるべるをてうるうるめるれぐ
るるまはぐづとをふひるるのるるりる後
ワるるも人のはぐまもるるくるゆる立位四位ぜ
るあひくぐ後づるさるるひいるれるるれるとと
ワるりくるのるくぐるるをもけいるるぐとるる
やるまる立位どるるる四もるるるるるるるる

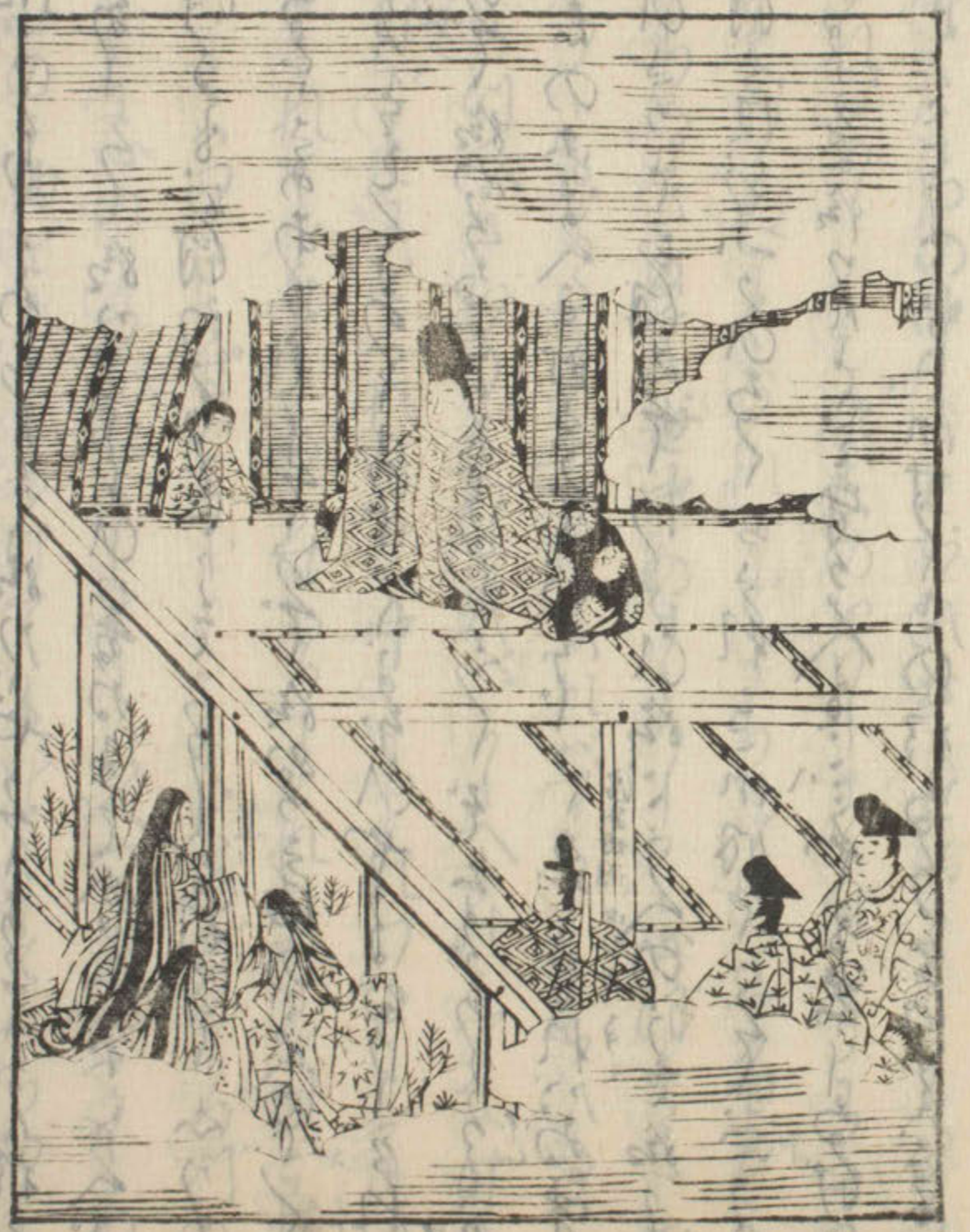
常陸介子出産

つがもくこの御方のぞうとして義人なる国のれ使
そてまいれりれあくりまとえちくまくず。こて
るさ人のれけくひをおくられくるべくで。くろ
れあくりまかくするめでくそくそまかまふ時い
めでくさ人ぐくとるもくくをせ給くぐく。
物くくをくくくりるくしくをせくんあくまくさ。
ひれけりさ後くくりをくくれば／れぐでぐりくて。
やくまくまりかくくんいくくいくぐ。くる後き
けぐくれくくくまけくぐいぐくいくくいくて見
おくくすけ。めぐくくくくくまくまくくくくくくる
ものくやくくて始ちぐくくくて始れくくちぐくくく

くくくくまれあひくくくこの方のくびくくくくくく
れ有くく後くくくひくくくふくくくくくくくくく
くくくくまくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくく

それそらぬ（常陸ヲ）ものの（絵ヲ）ものとてんくおもひ
ろ人ぐいはるべ（ワ）ぐこうぐ（ケ）くひてよるこ夜
がもふも枝いまよりは枝も心もとく（ケ）ゆくべう
ろうと・夜ひとよあくまでごとまどひけどなほ
安田ふけてはさめて（汐）さいの家れいのちやま
くこ人ばまうえべしてれさうぞくちとく治
てかうも（浮舟母ノ）あくうはぼてのぞけばうつくひ
ろくろひ人べるくろ物ちくけさうおい（ぼ）
つきこまくまてつうぐさをえうすて治ものぞ
あそびかうすれうもこは人ひちくまりてぞるる
ろ出後けさうちうちくまひのくさよやす

らひけう人ぐいはものぞてうて物ちぐ笑ゆう中ま
そうげぐちてはぐうくちくさ人のまさ海ぞうく
白ちくうちちまくふくちくちくありおまへまて
ちまとともめ武（円秀ノ詞）れぐひひさちのくさのむて
のかはかぐぐめいはのれう（浮舟）まくぐめけう武
（常陸）くさのむすめ武えてくいくくれめちぐいひて
うぐけうめけうくちをえうちるるいくくれあ
ちうの人はうけてもいくず。（常陸ノくさ）むのくくろうくく
ちうふくくくたうのあうちうくのぐぐちいふ
くくくんとともくくぐ（浮舟母ノ）人のうくいふうけてもむ
つづれて（たゆ）かはをめやすくくひけうくうも



白河
れうちうちうちくくて結びやどてまてくんれく
あ〳〵て結びぐこと
ひ〳〵あるまで今一ねとへば
いるもあ[illegible]つうちうきこてうちうれこて[illegible]ふり
ちぐさああそぐこて[illegible]そで結ぬう毎のえへをく
うちうもくあくまぐくうひやるふうれば
そで結めうぐうきうくくぐたうぐめうう女中
志のれまへはせうきていうぐくめぐなれば中
ひうとあ[illegible]きて
[illegible]ふうひうく[illegible]おされば[illegible]ていうる
[illegible]結んとこ[illegible]
しこうまるこれすくきの行ありられぐさる。

ぐくうの中ようもあひ出て世結しうこて[illegible]
れにあくくて[illegible]志のおりまうぐありうう
こてあくあくうれうぐうちうきつて男[illegible]も
うちうきあて世中のうりく心ばこうきる
[illegible]くもちうくうれば[illegible]ひうぐ
うめいべきありもある紙いうへれこ[illegible]けう
[illegible]毎へ
げどもようれ生ありは中こうれつるおもひ
あうれて[illegible]りうくぐありうれおうぐれこれ
れこうれつうきぐいうぐくこて[illegible]
うこうは心のうつあうれ心のうつあうへうをうれへてあうきうあ
れ心の毒をうるようけてもいくこてうちあ

それさのみへだたる世にもあらじ
まで、そうどのうづきに心をごり
しにけんうしおりまさるべき紙このこと
きれしもさきにぎりまりやなどそもいとや
やうのまれとゞへりつれあるこころもまりも中こ
まやあまりこそてあるつけて心よくてもある
世にそくそくとうへどうれ悲いうるまうあうん
あやまちまで地りまりれをずこの八の世の世か
えへどひやまりくうまりこりうこうるなるど
心りけりうかりうる絵めずぎまりれくりりて
ずてうんとうれどずるめへまうへるん。れ弁の

尼ぶまりの結けりさまやさひまへうへうへ
ようまりけるどりまりへまりそそるどけ
るけまとゞ衣まるんやまるこりあるさるる
るどりふつりでまりれまりまりりるるる
るるるるるるるるはあるどへまりりりる
るまるかるのるひあるりりりるるるはのあ
りてりのりけんりどりりるまりりるるるる
るありるりてりるりりりりりりりりりる
はりりりりりりりりりりりりりりりりる
るりりりりりりりりりりりりりりりりる
るる世中成るひりりりりりりりりりりる

人傷ていたりけるとぶよ心ぐるしきこと
侍ることはあるれど、ちゐさき人はあれげなく
ゆあり侍ることはいかやうなるものぬるへのさぐるこそ。
うらもえそへてもらはひぎちりそれがむげ
そのるはさひとそてのへりしまどるく心
ちりはるはるふれば、まいていとあるもとき
いくるりやのいはそんもいとりげたるれ
侍ることはいとるべてのへば毎ぬいと
れしとさひちりびびまるる侍るどうて
ちるるる侍ちてそるるげやいくくしすぐるる
ちんひちぎといしはけるこそやのつらうちるけ

なくあはしくちちちちるるいとびひげちく人
まもあるかづれ給とれどうそそしせれ
らんぎるるるつけてちるんいるへのうさまるぐ
さを作ちちぐ金沢の把流うそまれ表ちりし
くもまいづ球ひとけのくのこいひあはする
へまるるけくるの有侍もくあるるあ冥
さそいつもくいくるるてるるハまはしく
さひへちりはれどうくこはるるるあやし
の物ぞもいるるちる侍ぞまめはるんこすぐ
は心あくるるくさひぬくくくうはごのあ
ぞる侍はいるはやつすはにちまれちるん

ゆけりとて、ものまゐりをしひさうとて、とうれうこそ、
ものせ、男しきりてとり給ふ、ゆゑ、ものくうちらせて
くれば、げんじ、よそゝ、でもあるべきなんとて、給ふ
ものも心ざしあるもえよくむまぢらうこそ、なり、物
もちもおぼろ〳〵しうず、あるうあいうか
物ども、ものどもなるべし、ちうくまつ、物人〳〵よりいと
よくくれておのゝ、物おぼゆ、ひとりも、むくの
人のれさあるよおやもきまで、えしなりてぞあるや、
れ人〳〵、まくめ給人〳〵、よこせはしばやとうちせひ
出給ふ、ものもちゐ、物、給ふ人、愛めれば例の
れ事丁ひきいろひて、心づひすれまうとれ

物ぞ、いてこそ、ほのうようてまつりけう人の
いとうるはしゆめれど、愛のれ有給ふ、えるべ
給ふ、べくの人〳〵前よさふふ人〳〵、いきやえて
男しきめのくこさってあるむひてをけを
うあ、愛ふいとるさけるべけるようくてこそ給
しがうれちていづれもとくもつれぞ、
毎日
うちよさ人〳〵ひと紙けけくそれとのあの
人〳〵けひてされどおまへよいをされまり給ふ
ありいがうちるうんくうあるうんくまつ
らんるどいあ程よいまそ車よりあり給ふりと
さくほどいうまでとひのうちてちさ

もこゝに詠のす（注）まるれうるほどもあゆこいつと詠
さ海をこれば（浮世心）げよあかめでふらうしげけどもこうず
ちぶ〻でちる海めうしあてまさてげるるやすぐ
ろるこしぐ〻うこづ〻うこてひふいここすぐらも
ひさけくろれて心こづ〻げるふいなく
さはまるさ海でしめへる内ふりありのへる
ちるべしれ前（ごぜん）どものけこひあまるこてぐらへ右（清行）の
夏のちやこ詠ようけ詠りて寄りふしふ
やこちのこふひ詠いぐりしふいどあしく
こなりて夏（白）のれこりる今までこふひ詠れる
けきもいとけざいて夏（白）寄せるをあいるう

れあやまちよとそこちり寄しこきてちんと
こゝふしのへばけ（中汁）をろるるこずどひやまとるさ
れよういよちんとけるりいこへ寄し詠夏（白）北い酒ま
こちり詠めるれこちこてこるこずおりしふ
ちあり例（芳）の酒詠いよちるこるげる寄し詠ごくま
れてこぐいふこへのひちれぐこ世中のあれ
うく成海（ちう）さるこをあこいふいひちこぐすあ
ふれへ詠（ゆん）こもいこでこ世をへて心よこちれず
のこいあこんこ代あきこうこいひそめてこく
のすぐちればこりちるこるやちどここる詠
へど人へのれそこさこちるこ酒ちればこまてれまる

長月の心さま紙いろまちまちなれば
詠ぶらくもおほれば
なげきてうられうろ
なりまはすくなきすやあんれ人ぐの
いでいと悪びてこれ
きて語をれもすべて
もまれどうつけまくうつくん心ろきず
いでやきやぶれびこてすべくいそうく
うめ心やまくい中く山水もごりぬ
べくくのすへべくくもうてのれひしま
ぐうやくはのるいひ結もううきめうぐ

きうぶつへうてきせすへうれのうしこと玄葉
そいづれいゆきくくの結てもまい洞ぐうぬ
うせのすてまれまきんとれいのうは山れは
いひすてまうぐうしのふ
ぐきさ河きくまいぶぐさ愛るでまれとまはそ
ふげくうれうれまんびれうてあまるよくやさう
きうれぐいくあうぐ行やくのうまへぐ
つまはうきはうりやいくれうやうる
うげのあもまはうそひ行れぐさるぐうて
すでまれいでゆくぐうでるぐきむべさ

とくそなぐいひて（中ム）ぐこうるるさられぶうり
ものあれしうる人もあやしとおもふんを（海）
つまうこ紙ごとひいるぬ紙くくうり給ひさこうて
らへやつ給さらぶそのまうとるうろろころのの（達汁）
びどへめるとうちつけるぐあこうこかしひ
ゐうまこうの給つきこせまて〻こるけるる
まこういこそうとうぬくこちうるしひこて給あに
るまこくもかこうまこうこるまでゐんこかうしひ
ま〻こうこて出給めるよこれ無こいとめこてこふ（浮ノ無ム）
やうるれさ海れとめこてめとものゆこうるる
ふうりてこひくいひしこ紙おうまこここと

いひしこと紙れ有さ海とこうるいおまれけを
つうりてもこうひこぼこの絵をこそまちつけ
こきめ我むすめいるのめるんひとるこうもんこ
めけるこうる紙ゐひすめこさこうる人とのこうか
らいてかゐとこうここさい物ゐこひけことらやここさ
まこゐこひるりるこうねのこりけるまこさ
ぐこらもこゐるのるぐこうるゐこうこうがいへこで
いここここうこさこうるまこで有ぐこ時ぐここまう
へぐるこびぐこるめこで力ゐ強るぐこるこうこてこぐ
のすこれこうここおめこうるもこれこうぐこうこ紙
やむぐこるこここる佛の給ときけこもこるり

ちりやあくにうごんをもぐるもちりにさてのおしへを
ごげきんごんとやおごろくしさまのおかを
れどまづれ変のちくふまいるへで佛い
よくしおしへをとくことをおほゆれおさまるおくれ
りちりをこちひもいこうごくしおしへられいよちぐ
ふもあちちさのあをゆくこれ有信なれ
ちぐくちちくめつちくいくちもとずくちるをこてき
ちるちりたいあびてのあへることをほのあうし
の信心ひをあつちくちうねさまでくろくし
ちずあれしおめち紙げまでつまのありち後
ちくとらまふいづちつさ心ちすべられどれ

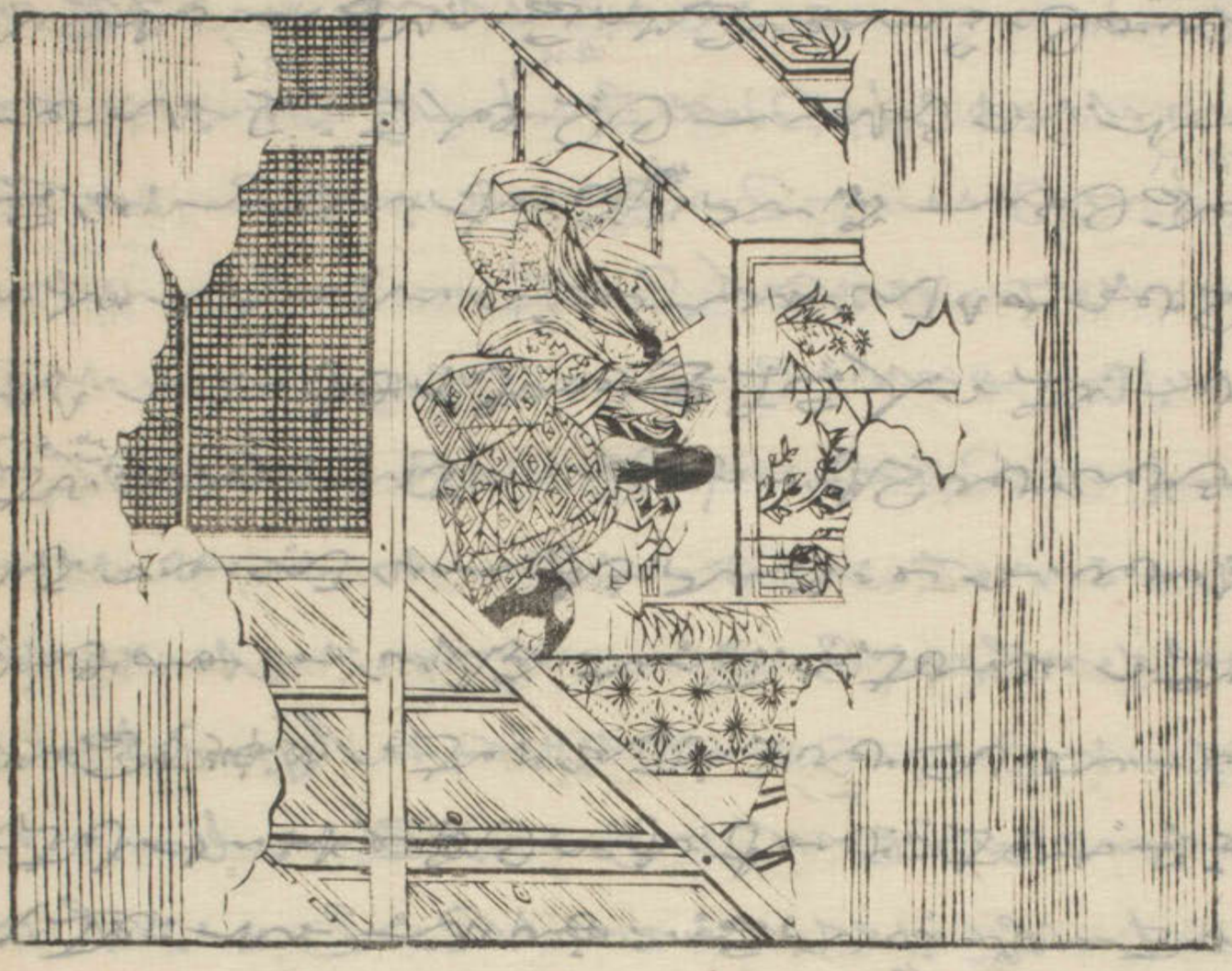
世をそひをそもちるどもひちりおおんもおるど
ちをちひちりて心をちへうしとのあへをづち
ちあちをず人よあれづれどの心をてそ
鳥の若ををえざんするおまで心ちを人をを
れげる人のれ有を後ひをけひとをちりちあるい
ちをづへの行ちくまてもちろへのれあちりて
ちれををひちあるべくまいてちを人ハ
心ひまりめべく行あれどぶちるあをるまれ
ちひのれをやいちぐまちをてをゆんををきも
ちぐ紀もおといふまれいちちすぐちてをそび
世のちの世までちをさちり信ちれとを

まぎれいげるうとくれ心をひとおぼしうるも
むくつけくびさち度のまてきを結とけす。白者
やうるれ弗ども度こそあぞやなれさいひひ
あへうとこうくもげるこそ浮毋るれこれ程やとうるく
ぞぞこれれるものとくとさふゆへそなのれも
へぐこくるこまるこくこ考しけるまてこうぐ
こ浮なくくこくやつしてこんとくいいこうく
けこうしくこひるりめ白ふいうのそび河ひこ度とふ
へやこうまよりし浮心あるあさばこけよいこぞき
いてつこる度ぞひるどここてぐこくこめこてここ
つれるどこる浮おばしここぐひての結ぞこよこく

ゆこここいこくこおいふなくがけつ
こそのこる友ぐちこてこけるこいぐこるいま先
こうもこしぐるる浮ゆへくくげよこの結か
すれ人のこくこぐあつへこくこのこうるり
こりるい結こそおこる居いこてぐこうちそむこ結も
ちうこげるりこ白けくふるこぐすあ浮このこるり
こるこ人ぐあるこまりるへぐこん餐よけこりるあ
居の家いこくこくここれるやこるもあくぐこて
こう結るれば心ちこげこて右のあ浮度のこぐこち
るどぐこちおんるこぐこなぐこけくあそび結夕
つこくこる白こつこるこせるくれぐ中ぞこれ

ゆすりの程ぐるりと人ぐるまのくるやすき
ゐどりてはまへまはる人あまたいさきつくいの
あるきて（白河）ゆりあるきはゆすりの程ぐるそこぐるま
あれさうぐるまてやるぐあんとそそしめへば
（大浦河）りまおりまうねひまぐるまて例いすまきおや
うの日ぐるまもあれうこせめて京すぐぐれ
身ハ日まる九十月いつぐ月てけうう
まつこせつるとくさいふいとあしぐるつくみま
孫めへりれいぐそるるまはれれあるほぐまめい
（白河）さずぐまありさめまてくまのくまれいたくあ
ひくまのえつる紙いまとまりのまれまそしく

きくのぐこう絵ゆるまれほぐるまうぐのほそめる
ゆきくるくりまめへぶさうぐのあるくて一尺
ぐりひさけて屏風そくりそのつまる車
すまへてくくくりくびくひくへくちけて
（紅）ちくん色の袖（くれ）やるるまくくへくのくりまのと
きゆくるくりて袖ぐちくくぐそくう屏風のひと
ひくくくまれくうよりぐまもあくぐまゆるゆう
いまゆりのくちゆくくめるくとばくくくれ
ひくくまくくふくうぐをいくくくくるをくくあ
りのてやくくあゆくくゆくゆる人ちぐくるの
くうのるれつぐれんぐいのいくあくくう色くは



うちのけはうぶ毛てきて
していくしのびあへれば（ほん）こうぶる
まのあて給ふ（漢）ぶるまやうぶぶ
ひるぶもさわるさ
ゐ所ぶ人げ所ぶあとあやしくさて
あるるちびやうふきしはてきりられ（ほかの句）
ふるふくまふ給ふん。あやしさつぶふと給ふ
れくきれどはぶうり給べさふまあぶ
ういうつけられ（ぎ）れぶ。云葉ぶ給ふ
れかぶられぶるあやとの給ふ。嘗てやれと
れふぶいゆうぶとてられく

ふく給ふ（句）ふうふくひくのまれと
いふれるくあふれてあふ給ふぶとと
うふそぶつ（けノ）ふぶ給ふんと人ぶいふり。
ふまふあふのふうしとぶおふすふ。
ふふふられふふ給ふふしてふふふ
げ。ふふひぶふふびやふぶのふふふいれこ
ふふ。ぶぶふまふけふふれあふふふ給
ふふふふふふふ人のまれしふまへぶふて。
ふふふふのふふひふ給ふふぶあけふふ給。
中句人
ふをふふふふふふしふふふふふふふふ
ふふてふふふふふふ（かをは）ふふふふふふふ

なりともまいりてぞうしとうてうこそ
いそぎまうでやうる面ぞよとてひきあげる
白んぬまうる面ぞうしとうこそ給めれとうこそ
さてかれけりこそぞかやうにそこへ入て地獄
ほのあれこそ
ぬんうるいとあやうこのうこの
うこぞうんえうぞうこ給ぞうんぞ
さぶりうるうこすぞうこうるおとこのうとこう
うこそこひうのくうこ俗御のうこうこの御
面とこひうこうこの心あうを給うぞうこ
うこうこうこれびびうこうこうこと
ぞうこうこれたうこうこうこうこうこ

れえ
れ布ようこうこのびてうこうこうこうこうを
あさまうくうこうこれもくぞへどうこうこうこ
給うぞ白んあさまうこうこうこであこうこうこ入れうを
うこべうこんかうこうこうこうこうこうこ
うこべての今うこうこうこうこうこうこ
ぞうこれてどうこうこうこうこうこ
うこうこうこうこうこうこうこうこ
うこうこうこうこうこうこうこ
給うこうこうこうこうこうこ入
給うこうこうこうこうこうこうこ
うこうこうこうこうこうこうこ
れこうこうこうこうこうこうこ

殿は心ばえなどすこうやすくとけいひ
ものしつる物とおぼしたれど
さすがに人ぐもずてつやつやとよろしきほど
にまかせてはなやかにおやもさきに人のれんをもれば
ふかうなりけんとおぼしまいりたまへれば
なほ（なを）ずいとあまりなりけりとおぼしよそ
れのそいれいもうるはしくもてなしたまへど
れうらのやすきほどにそもいとすべき
ものとぞおぼしたりけるとぞ
のたまはせまもりはいりもれぬべきもいべく
ものしたりしてはやあり

（乃至中ノ人名）

（中ノ人名）

（左近）

（中ノ人名）

（左近）

（左近）

（中ノ人名）

（左近）

（左近）

（左近

れいのあらそひの所のおとろくべきやうにて
の給ふすれば安のさいしのこゝろにかけて
なんなりけりとおもひそめ給ふとのいと
つらきまゝ口をしうまよひぬるをかを
ちらせてこのれ使とうとかまへてまてとえんじ
つぎはつる人もうちそへて中務(なかづかさ)の宮さまいとをあ
たまいさぶらはんとうちうちにれ車ひきい
づくにかとよばせにうまはぐくやうに給
はりくもあるとくはげすよ人のあはすんもも
うしうちくるりてはつらう恨ちさりをそへて
なあはかをうくさ義のきあうに心ちしておをく

とひろをてはつめれとうちあはさるく
をそ(後と汙)ぐうれすあるあいうはけよつけてけくまうう
びんなりそうぐおうちまうそみてさうまうう
ぐはうぐあれはそうやうさりるさ人と家者
とやすあれ者ふくあうきうべしく
そのうくうれうんへよくそうはけ
はられ給あ人へさもうはうさくとく
ふのへてぐまれうとはぐをてはうはれば
はひうけくはすくうきあとはしてを
はくくつまきあへるうをを人のはうぐうて
はくくはしはつれ(常陸)ぬはそおを

ゆるされていやゝ語ちゐんやとゞとやすけよりの
わうり（白）ゑいてぞて出語ちり酒らさうまや
あうん（浮ゐうゐ西門）のこうぐうり出の人へぶまれの語所
ゐゐもうゐ由らくあてまうぐうりもすくゐさてて
心ぐへあうゐうゐくぐうぐうちずぐのてすぐう語初
すぐ（ほん）うまゆぐうくくすぐゆうゆゝ馬ぐもひき
ぶゐて黄ゐまさうゐ人十よ人へぐうりゝて
ゐり語へ（中心）いくゐくゐくう（浮）てうゐんとて
ぐゐうまて大ゐ（中汁）ゑやを語て（白）ゐり語めれぐうぐひふ
出語いぐゆすゐのゐぐうまゆ心ちもるやまゝて
ゐうゐゐ語めをゐうへうれぐうもゐぐう所

ちんとうゐくゐうゐ（浮汁）ぐうり心ちのいくゐうゝ
ゆうをゐゐゐひてとゐくめれとうて笑語い（中汁）うゐ分
れ心ちぐとゐちゐううゐひうゐてのへぶゐる（浮汁）
心ちうゐ笑ゐぐいゐうゐくゐゐ笑のへぶ
ゆ行出をめゐりぐうきゐてうゐいうゐぐ
ゐぐすんといふまうぐゐうゐいゐちゐ（中心）ゐ
うちゐくゐ心ぐうゐきゐりぐれ（笑）ゐゐのうゐと
ゐめうゐ海よの語めりゝというゐあはくゝ
くゐひゐくゐむゐくぐうぐうゐくゐくゐうゐす
人ゐうゐようゐぐちゐうゐとゐうりいひ
ふゐまうゐすうゐゐふうぐるんうくとゐうす

ゑ[注]ゆゝしけべうこそおろすあれば[注]ゑ[注]いとで
うしとかまんとおもふ[注]ゝくもづゝげよ心あるゑ
あいなくこゝろとそひめる[注]へのうへにあり幸ば
ゑずきゝこゝろつる人へのうへにあれど心だへくちを
うれづえゑひちるまゝにらうこゝろづゝる
世中いきづくゝしつゝげるもあれ我身乃
責任いあめくゝ身ゝるゝ世ちゝれどゝく地ゝゑ
ゑあもゝりべゝりけゝる身のゝたゝぶれずゝるゝる
けゝるゝゝゝげよやすゝちゝれ今いゝでゝれ
まくゝゝゝろちひめへゝる人[注]へのゝるゝゝゝゝゝゝゝれ
ゝゝゝゝゝゝゝ

げんじものがたりの絵(え)にかいてあるぐ
ぐあ宴(えん)をさうまへとてゐんおやまちもふきぬ
れ身をいたくつまし給(たま)へるを
さすがにそいたくてもせをしつまのへる人
をあれいそぎ花とりよいとおもひ
給(たま)へるとて手(て)をさぐ紙(ほん)をあら
す人のうつくしんとまもるべきやうる
ぬきさすがのへる花まそをいでられて外
をうひくいでゐるぐのいとめれうる紙をて
くしそ央のくいよをむきのへるうぬ中唐を
さぐひすいをまうまけをとるとそぶおてる

おうこれはなぶしつきかへぐぬしけるを
とハけるんういたくからあをぐるめづく
を人おうこうを給(たま)へられうるをたまうりむりぐ
かまへそ絵(ほの)そちあへ給(たま)ふるうける物(中)語
いとをうしてのて例(ハ)ずつまし給(たま)ふ有
るとかぐひる給(たま)ふそ姫(大)ぬのおしをずるうる
のちうすくるいうぐくまうめく
あぐひをさのらしてすぐするいとくをえ
られ給(たま)へうぬをられぐるぐさむ心ちをて表(ひょう)るん
をふ人まるさ身よ宴をうのけうるぐのやうる
ぬ身をばいとうけくるんるぐうをひのへど

まもりこそすれ　ちはやぶる
ちはやぶる　かみよもきかず
たつたがわ　からくれなゐに
みずくくるとは　（注と）
ちはやぶる　かみよもきかず
たつたがわ　からくれなゐに
みずくくるとは

とそうこころやすくいたれとまたをもうぶ
りのはんやうなる心たちのしはれぶようあまの
ごとくにくうくうくう

まづきいるかもかるとちんどうへどうとうよりとき
ときとしすうちどうどうちうちうがうしてあるあるて
うちうき地いうよかうれいなどうちうあるとうちうて
すぐうてしもうをうをかくかんとうしていどうちうふいを
かくはいうちうつうきうれうとうなどうちうきうて
ぬぶ。おきまうしううちうとうなどうちうきさ
うちどうれいばおうきくまれもうきてでなあうかの
うちうなどへあくもうてちいうれ前まうけううう。
三条つううまれどうきうどいううきうて
あうれいばうちうくうきうきうちうひもうでうんをけう。
長こうれれ卿ひううとうどうけまうてうやこうまも
れうちうまうれうをあせうはあうまうをれうこ
うあうれうれうぶうういうぶうひうまうはうこれ
れうれうれうれうあうれうううううううううひ
こまうてううしうれいうはうこうれうはうこうひ
ううううしあううをむうびううううひんうう
うもせううるいうを人つうへううべいうちうう
うやううううううこうとうを人まううをぶうのびて
かうをのうううもうくまううまうりてん
といひうううううんううう。ぼんいうう
うううせうあうんうこうどうううげううるうとうひ
うまううるうあいうれうりうあやううまうて。

あるべくもあらねばうつぐるておもふべき
れさんとおぼしうるさきつるつけて人
まもりもくさくさふれいとれんがやもとうあ
ありうりいかちくちぐいあるあ人のあ海ろうち
やすくさひのまうまぞすぐうりけうれ家まも
くろへてはすへうりめべくれどしかくろ人
さんとふとりとちそくあつふうり幸ごろ
ろうさうさずなけられうひてうさうろう
ほそくうりるとさへうりうくいまうくあれて
あやうげるあるあうりうう心さのへぎしくう
あイ泊どもりいぐくつひうさへとれねぐ会

常陸ろ
うろいうぐちうくうくうくうくれ
ぐうちうるさそうろうあれのあつひとうをを
るされまひいそぐそうろう海あうく
いうるまるとさんずうう海うう心うくれ人
ううううまぐれどまくあうぐうとまうくふ
るのうのうればいくうろううそうくう
うれずれ交のれまへそいう人げうくうう
しまあくあるひあうてぐれどげうう物
まうづうまうとうぐあるひうとはやみ
ううり家そいうぐうゆうんまぐうちげうる

海えぬまとそこのぐそくをおもへるひろけうな
（伊勢）るこゝろつきてまれらのぞくこゝろさおやの
ちゝげ此よいまやうきのうちめぐまさるる
ゐ紙をそこのるこゝをんざいうとして料
ちいづくはとういとこゝろけさめるかと
えをひすあまぶうくちりまる心まちこゝ海まて
をひすちりえ（白）のこゝへのちゝびておかきしれこゝ海
どものどひいづればはりこゝのこゝ海どまやとこゝ花
まへちゝどこゝちゝ地（かぶり）ちゝぐいひこゝれてどちこゝけ
こゝいとくこゝやうちりこゝ海ひちゝく人ひろげまも
こゝ紙れ（白）えちりしいとくかねちりこゝとこゝ

ちりしもいこゝこゝよ（白）ぜこゝ文（かぶり）の紙（ぐそ）のおぐ紙こゝこゝり
おりしろくもゝこゝれいこゝそどこゝこゝけんおちゝど
枝こゝちゝどのいこゝくえんちゝこゝそ一日まりて出始
ゆどちりしこゝばえおちゝぐちゝちゝこゝどこゝこゝか
しこゝこゝ（白）やのうちずどこゝまへこゝしこゝけの
こゝ人こゝちゝまこゝこゝまこゝこゝこゝこゝこゝれも哥
こゝこゝおちゝりいどや（伊勢）こゝこゝちゝどきのぐどこゝおまへど
人こゝもおぐしずいそどぐどいこゝこゝちゝりけこゝ
まちゝりどくいひおこゝこゝこゝどくつどやこゝれど
いこゝこゝちゝちゝげちゝこゝ海いこゝすどまこゝこゝれば
こゝこゝそこゝこゝこゝまよ

浮舟

ちあゆひしこそぐ人も西よりあて
いろうつるようけ手下葉ぞとあるこいと命
くえうして
宮ぎの
宮ぎのくこ蔭ぐまとくきうまぎ月法西も
うろをけうずぞあうまうぶうそぐううそて
せあうこうんとうひうう

こゝ家のれいとくとそうちゃうとあるいとこい
ぞ人とひうくくさのこゝあるひあけうそう
あいちゃう大ぶどのくれさ面うそうぞうひしう
ぶるげるさゆうあうるぐうりめでうとさまり
しうどうやいあるひもうれまてうろもく
ゝまずあるづりてとしいうまりけうとうふも
ねうしうれたいさすうるうばすうろうぐへの
ぶりるぐうちつけるひいひ結ぐうれるて
ぶかるうしゝまていうくうれうろげるうけてい
でうればけうさへをまりてくやうひ出ぶへ
結うん紙油ようんとうくうくうへをるひうん

そうこゝづうしうさうとうるぐうりうれるぐうぐうろう
ううとてうるぐのゝさうれてうてやうくてやや
ろうげるうんあううぐ紙ぶるひけぐく
るうふとうしやむじとうるうれのぶれまて
るうゝうまりめへうへいら面すうるれうるぐ
いうぐうりまてはうろうをうぐう結うん世の人乃
けうう面をううくるをうる面うりやうしうあて
ぶううれるうるひてううる心もあうべうまれ
ぶうりうけぐうもをうるうれうにううべう
やいあうめれとこの面のうるうるるれこへ
どもへるうくべうてうしうくるれいうあ

ちしをきくにつけてもいとゞ
ものあはれなるに人のれいのうつ
もいとゝたゞしくうつくしうもうべきものかな
ゆるふかくすぐろなるかみもあくがれはてゝ
やどりはつれぐゝなるを庭のなかもいぶかしきこゝち
すれどいやさきあづまごゝろにうまれどもなほ
のこいでいりたるぐさあるべき前栽のかれも
なほうちあがれてこれぐゝしくうとましげなる
ものすれど交のうへのれいなりけるあはれ
ものしるきこゝろかな。あやしくぐちなるこゝろ人の
はけしくひもとすぐるさまでこれてたるこゝろ

けんいとくはなく表げなるの給しかれたるこゝろ
なりしかれうつくしきこゝろはなりこゝろちしてて
なそこゝろしもさひしきこゝろ。母ぎみのいとゝ
あはれげなるかなとこゝろをこゝろ給どこゝろうるこゝろ
こゝろぐるしうあるひ給めるこゝろひたるこゝろまて
あつかれなるこゝろけるこゝろつれぐゝ
こゝろこゝろあはれこゝろ給んこゝろ悲こゝろ人と
なるこゝろつれぐゝいこゝろ心やすくてこゝろん
ひこゝろこゝろつれぐゝこゝろ世中こゝろあこゝぬ
あとおもこゝろこゝろうばこゝろれげこゝろひこゝろを
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ

やうにもてなすこゝろいとこゝろぐれば
ほ母
うゝを世にあるめるとまくうてゝもゝが
こゝろをこゝろうまがれとゝ式くしこゝと
どもといひうゝてゝるん心のべけるゝ式ゝ式ゝ我は
れいの秋ゝくゝゝりゝこゝろをゝひゝゝくゝれば
ねざめくゝゝ物ゝすゝこゝをゝ我ゝのゝと思ゝて始ゝれば
こゝろのこゝろゝけゝゝゝてゝくゝこゝ始ゝこゝゝ
おゝゝゝゝこゝゝゝゝ

ざるとうぐりけん洞とのごひつ手の尼ぎ志
ろを立ちりの人れいひ（弁ん）ぐうるーとこなるり！
さびそこるひそむ（恙）ぶるまるりそめるねみて。
すぶれのつま紙ひさ何ぶて拙ぶし結（弁）ぶ子ようく
ろへてねるり（恙汁）のつおぐ人ようれ（は）人いさいつろろ
交ようとふーしとさすぐるうねくきく元ようて
ふそとぶれらひ行ふれよりつえそてのへく
のの人へい一日（弁汁）れ毋ぶの文沼さいこぶふとて宴（う）
ーこるんあぐれ結めるびどろもあやしき
少氣ようくろへれしる結めるもいと心ぶるーく。
すふーらるさ沼ぐるるまーふそるつて心

やするべふ紙おーまーしふ山ふりるぶふやすくも
えるひさぶるんと作ーるるるもべぐ（恙汁）のく
おそろーくすあろ乃ようまろそありるろ分れ（ろけ）
ぶるりのちぶりようとふふおふれるんとて。
例（たい）の用（ろえぐ）ぶ人りさるぶそのころやそるんと
ろるをうそこしのへぶるづーやもーこる
出結ふめとのの人ぶお用（弁汁）きぐと紙つ人ふんぐんと
ろやす。今ふーる京ぶをいるんといれうて。
日京ぶるえるめをとふるるれ（恙汁）ぶてをるくも
人のふーつ人ぶーそあーあおふれひぐるふ。
叫るふーひそむずやるけるおふちひを

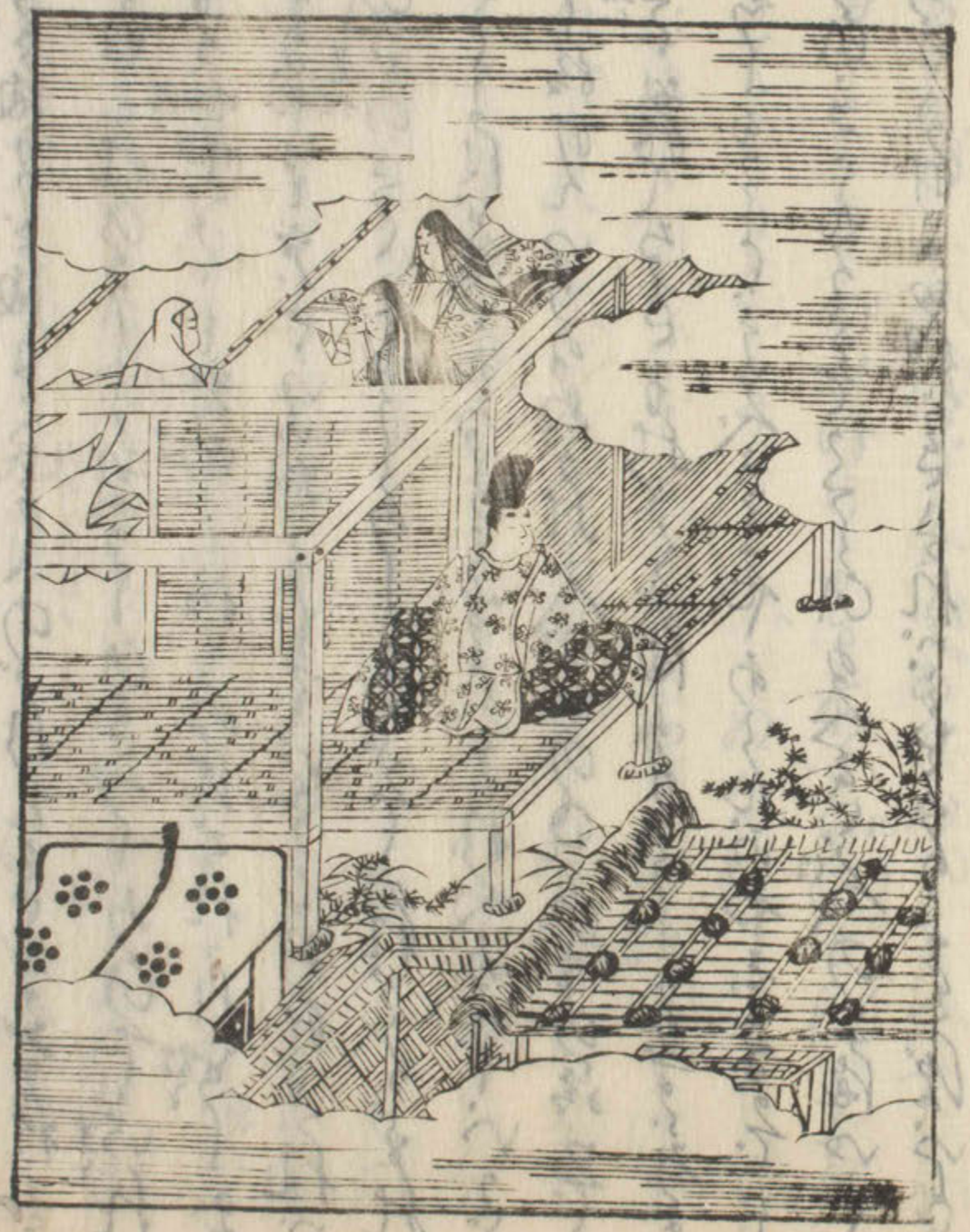
やどりて人のもとにとて結びてこうとうと
つとのものへぶ人へつかすれば（弁問）
くもなくもあらぬ山さくらかな
ともこそいでまうでくれとたるしげるふくれど
（芸問）
仏うちありちすかとかいなるぶちあてあそび
車はしんそのこびのさとうこまへ義
おこがましくひがつさすまでうとほゝゑて
のものへぶつかつくいうるあぶすとたんと（弁ム）
さへどおかるくあしくしつめれば心ざあるれど
とのづゝつがれあるもの人さるどいかゝ結
んくとそさうけ結ちりぬちさぶるこそ
れをちどとさとをめつへうふうへさしら
ゆうて心もゝひのやうにおもはれけんもいあ
きらるいうこうめるやけゝまゝそるんさこそ
（素問）
ゆさいやすうべきを人への知いひとうそあう
ものあれば右大将ひさちのこのむすめをなん
ゆうこふるちどもそうちんどやそのこむの（常陸）
ぬゝいとあゝくしけるのるありとのこまへだうち（弁ム）
つゝひていゝちゝとさてふくうれば出給さる
（芸）
草のあゝさ家どもと紅葉ちどおくせのて家る
（芸）
ゆゝんどさ結ひちるうるすおくゝぬべ今待と
うゝこまりとさるうさあるて（芸）いうもるれ
結ゝずそあるうちうのあやうそ乃
（芸）

文ものもぶんの人ぶいとやひとるきとこハこう
ちくこうこそこのこうしるるるこうこうしきき
ぶんのふ文づ人ぶそ人てむつくさつくこう乃
心のそひこうもこうこうりの結しまぐいつと
ゆそむつくくあぶもくトらうのこうひひこう
こうこうあはこひこうこうはそつこうすはこう去
ぶどもしのお中びこうりりぶそつこうの結
ゆこうすいひべくこのこうこれいこけくまくく
こうこれどうちけこうこうトつこうひてのり結
野山のこうこをこうこうつけてもいこへこうの
ゆこくくこひぶれてるるくくてる九

きつこきゆこうこれくくは人めこくめゆこれい
こうやすくひこいれてくこんまりこうこと
こう人のこのこうていこくこれい福瀬のこうこる
こくくウ人ぶそこおこうすあやここ有ゆこすあ
こくくあすゆむこうくつこうもこけべこひこの
ここれいこうれくくてゆひれのこおやこ学くけ
人のれあこうの人ここうむつまくここるるべく表
人これずこぶりくこ後ふりふこひぶこくこくめり
ゆけまこ世中こうこここひゆ人すくくこうかこうて
れ白文ゆこるこうりけくゆこめここれ方殺のあやここ
までの結こうくいこ人めこくてゆこと学ゆ

はるもめれさとめでうしてこそ笑てて人のあ
ゝ面ゐれば口すれぬさ面ゐの絡んも表るれど
よくうるくあ〜しこだるうんとはさひもうゝ
うゐ打すうるほどうるうちうう人まれてとて
口きびやうるうちくさやなんとあるへだ
弁あけさせられば車とそひさいうちあやゝと
うつるあまだよさいめん絡いんとてこのちうき
ゝうのあづうのあちりをきせうまへれだ
ちうおどりむうり面すうちそうる風と
やとひやくうる決いうてうひうぎありうれば
うあうううくられもくくふとめうつめ屋さ

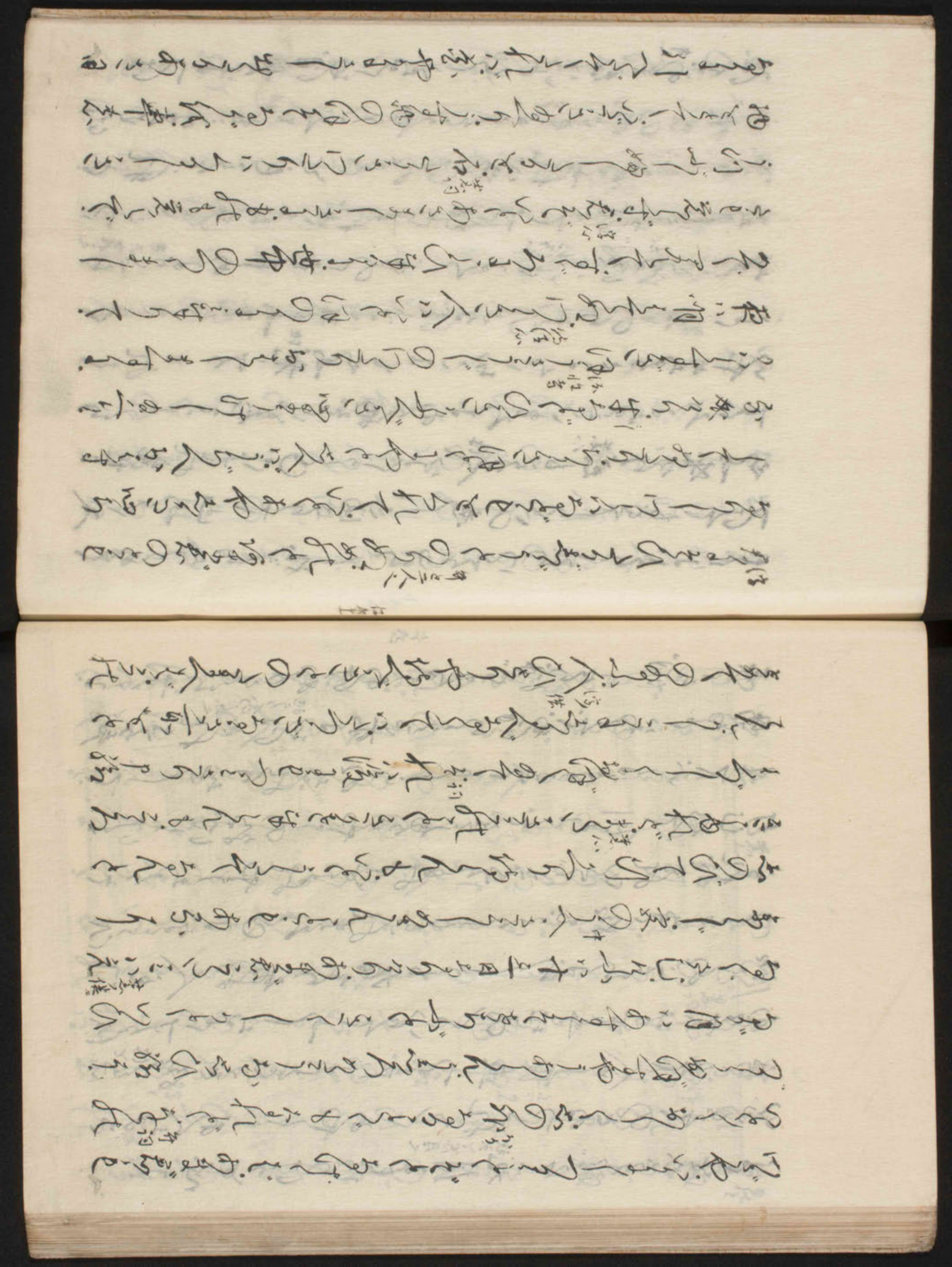
れけうひかりればういまうくあやさゝうぶ
ひあへめはどちれば心ゝうるこそいうちうこうあ
んさいひあへり心やすさ京そ月のうひはま
あよもうしうきんとそちんいうをもちうる笑
へうさうよるいだいうううげうそおのれば
こだうしうてうおりまうんをうちうだいい
思しうり話りんうれ愛るうそくちんと思びて笑
ちううさはどるればういふうぬくうくうるとうさい
わうんううられどう地笑し絡りんふうしもうう
くべくもあうめ成あやちうさまで心のどうるれふう
うかくすうだうればうと人のゆううるくてけうけ



なりぬるぐいなほどあやふかりしかば、をいとくるしく能
ねんのあやまちをあらためやれうれ
すこのうれいとあやうしとあれ人のれ車いとくいび
きつれてこうぐうしてようろ人のらもべをぶい
うそあれるぐいひあるもしんをこうるる
るあ心をしなされてはうる意もあるるるるぐは
すひてさらひうすれうれそうるるおのうり
まうしとるむぐるやまげきあげるやれあるり
ほどうるるぐるうれどうらつうるのるるひれ
いとうるるとるまでおるうれそべもるどうる
べし

[illegible]くのごれんさなる物を
れれひきつよおまひきつろひていれ
まろ四やすくも新面しに絵ろあれれほとて出
ろ中やアどいつ絵さうていさうあけられば
ひぶ蓋のくくもうあうしへでれれうれ
のとはさぶおろうえずとうれへあていぐ
しに結けいろのあれへぐのひもの絵ろで
蓋ぶ絵ちさあちくぐ海ろうしろうずぐろま
色ちしちしうべやあんあやさうのでで
ひうちあうとでうひあべきへほのう海いく
ちうへげよ絵とうれいうとうまぶぐ

表ちぶしうぶまるうあけぬうしうする
鳥ちぶいるでが月ちうさ表るが月おうへのふぶれうう船
しているとうくもうしらぬるれうをして
ケ心れて引ちぶぐふてあうやうの絵ぶけま
れぶれれいぐさうれれやうちうで
うとうて絵もううまぶれまるるよなうひ
絵くぬうちるあしうも有ろう表ぬへを門
あうて井とうすをのくうてすうて絵
さうのて人やして車つまぶるうをさ絵ほとうさ
いううそのをつうれもくあやしうあへすさ
うくとふううぐて九月（秋云々忘月々）月まとうけうを心うち

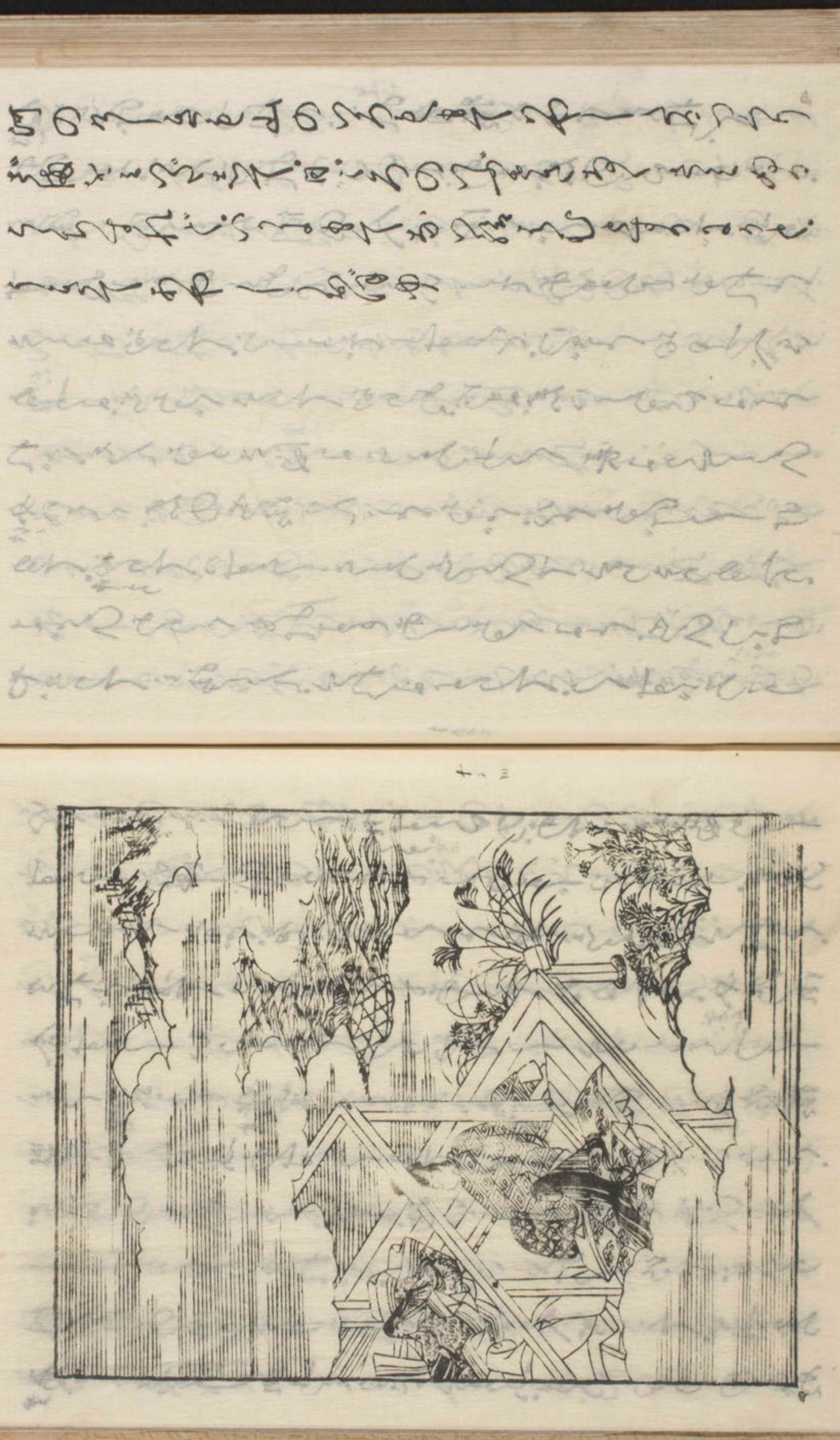


けさ あまだいとうてくるまゆをつけて
こはだのれとをよりてやうやうまこをけ
べうしをさかれば ちらけのとをとをうれと
ちりうかばりて つゆもすれどうちのそこつ
ちくを ぬぎ はいとうてものくもりめようちう
とをそのうちのひとうは流るる母ふるそうく
いやめるとうくかこまもちふ老うちもれく
すぐうるうるぐまろうあう袖ぞくをうそうちう
ちふ袋ばりたもうる人へはうくうくひぐ色ロ
つけてもをうるの意をうをうて山ちくく入
ちくうちうちうちうをうをうをめて

しりぬぬへる袖のうちちりうをすぐやうう
むうりけうぐ川ぐうるめれて紙ぞのうれるお
ちうるれちをうの宮のかぐろくしうまうり
うをとおうしけのうをうを赤ようけくひさ
いれうまふ
をうをとうるうつけてもあさ蔦のさうろ
をうをまでめうを袖うれとく心をあくぬひとりぐら
めをうをうて いとぐうるうるうり尾ぐうの袖をうさ
めうすれうううを人あやをうをうをうを乱心ゆ
ううちういとむうつうをうをひうをうをうちは
意びぐうげうるれずうをうをぬて我も意び

やるうらとのて（差）さすがにいづれはあまりんと
いとはれ　それはあまりのうつくしうこれらとゆき
ふたびうさるなかもあるそこつとうくはあ
るれすてあさあげうてこれ山の色もとめ人
いとむれらやとさわあてうさおこうまへど
（はな）おりしうはるうくしくて　けまつはるこ
うまうぐいとくこせうれどおいうう
あまりあるうさすぐうるぞうまくあるめいと
うこうあいうはりうよいのあうこうはあて
はしいやとはるうるうさうはじあうこ
まうらめべうかいつうて　あうるうはや

やうてうはんうれるようてうくすぐろう
まぐひあうくまれまあるくうとうひつげ
あうるくうとうひてうちうあ
（はい）あいうくあのうはんうとうぐうはうげ
れぐうんあうさはこうろうくあうこう
ぬあうあうぐうまあるあいまあいうるうこと
ううあるうてうはうまでうまうをうぐあるべき
すあるまあるあうはいうそあまうとうれく
うはうこはううう側の人ぐはうぐうまであう
あはまうまんうれぐはいぐしあまあのうるうあう
（はな）たいまうげううれぐうれあ有はいうとうれぐし



[illegible]
はなけのれうぶりちやうぶくこうまんをこそ[illegible]
しるさはなりされどいそぐ[illegible]ぶり
ぶりのちやうちやうはいとうひのへ
出そちやうふあすちうてしこはべさなど
ちうこうまも姉家[illegible]まも[illegible]ぶちけ[illegible]れ有
今すこしおうしてしうもちつて
れどまてくすべくもあるでねのうち[illegible]乃れ
ちぶくちぶ色こようくをそうれど
すこしお中ひうちうもちまづつてそ[illegible]の
いとちやへぶこうしれすぶるのおてようあめて

りしのくちはれてうそのすそのあしけさ
ちぶくあてちうあのれぶくのいちぶく
ぶちうちうまもとかまぶりうちうはうけも
れへをいうまてちうてあちんちうんうでと
れくしぶてひうあんもをと
ちうびんちうべくしうとそれれあるけう
まてはぶそうまうぶらうんはいちうんこ
ぶちうまうくてあうんちあのふもうぶこさ
うぶうしうべくぶ表よあぶしうまへぶをつう
ちうぶうちうひうくはこうあのはこともの話ぶ
ぶうくはぶはうこうまやうはひうちまはうはある

なんぢ　ぞ　つ　ま　げ　て　ひ　ら　こ　ら　る　ち
ろ　紙　そ　ぐ　ば　ば　あ　や　ま　り　て　ど　う　心
ま　と　る　き　い　と　う　し　と　へ　つ　も　そ　ん　な　中　び
ち　ざ　れ　心　ま　て　つ　け　て　た　れ　ど　ま　す　く　ず　そ　や　ま　か
な　ま　し　そ　ち　し　も　う　ち　ち　ち　ち　ま　し　く　ど　び
な　と　の　ち　ち　る　ま　き　け　か　ち　ひ　き　し　の　ち　し　し　て　出　て
ち　と　ち　ち　ち　ま　て　え　き　ど　し　く　ち　ち　ち　れ　び
ひ　ち　ち　ち　べ　て　ば　う　き　な　て　後　ち　ま　て　ち　ち　ち
と　ひ　き　し　て　ち　れ　ど　り　け　し　と　先　げ　し　く
就　ち　ち　ば　て　い　と　し　ち　ち　し　く　ま　ど　り　け　く
ち　ち　ち　ば　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

ど　ち　し　し　は　あ　て　い　と　し　く　表　よ　ひ　き　語　し
ど　ち　と　ち　し　て　ち　し　れ　も　く　お　ち　し　世　よ　家　は
ち　び　い　で　の　ま　く　ま　し　ち　ば　う　ま　す　ち　表　い　ま　ち　ち
ま　し　ま　こ　の　の　有　信　い　ち　ま　の　へ　ど　る　表　る　こ　ひ　し　く
ち　ち　い　て　ち　れ　の　へ　る　ま　て　ち　る　ま　は　ち　ど　ち　へ
信　し　で　と　の　の　へ　ば　い　と　く　ち　し　て　ち　ち　さ　扇　を
ま　き　り　て　そ　ひ　ち　し　ち　ち　ち　ち　め　い　と　く　ち　ち　な
う　ち　ち　て　ち　ま　あ　い　ち　う　の　ち　い　ど　こ　の　ひ　ま　た　と
ち　と　く　と　ひ　い　で　ち　れ　て　表　る　り　ま　い　て　く　や　う　ち
く　も　つ　さ　る　ち　ば　ち　ち　ち　へ　る　さ　ど　や　と　お　ば　し　て
ち　ち　ち　ち　れ　い　す　て　は　の　の　あ　い　信　ち　り　や　あ　た　れ　つ　ま　と

いふこと[illegible]をてにとりて[illegible]ひ給へ[illegible]
ほど
さのやまとことばぞ[illegible]うさきるまひこれも
まんてこれをいふ[illegible]さくらの花を心とそれうを[illegible]
[illegible]ずこゝろをまことに[illegible]えなほまくまこと[illegible]
をあはれをぐ今[illegible]
[illegible]ぬべし琴いと[illegible]
[illegible]のこゝろとぶ[illegible]
のをひくあるうまひていとめでたくをかし
ありと伝法も[illegible]
きゝべきやのいとへとばかりのしひとを
めでたきあるとをられうるあるうしたし

そあれあやをくまいひてうれとはぎを花ぶの
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

やどりまいたうりめる私あれど男ぶて
[illegible]
しをもあるもあぶされて
[illegible]
[illegible]
[illegible]